

アレゾーなるもくにゆきし  
硯にむかひて心に  
うつりゆく由なりしをこそ  
あはれとなくせき  
あればあやしうこそもの狂  
ほしけれ  
そやよのまに生まれしはねが  
けしからざる事  
こそ多かれ

御門の御位はしきもか  
し竹の園生の  
末宗まで人百の種なる  
ぬぎやんごとなき一の  
人の御有様はさるなり  
たゞ人も善人などたま  
はる際はゆきと見ゆ  
その子孫まではけられ  
にたれどなほなまめか

それより下つたはほご  
につけてこそよにあひ  
したりがほなるもみづ  
からはしみごとと思ふ  
らめどいとくらき

法師ばかりうらやま  
からわものはあらど  
人にはあの端のやうに  
思はるよと清少  
納言が書けるもげに  
さるごとくか勢ひ狂に  
のしりたるにつけて  
しみどは見えざる

増賀ひりの言ひけん  
やうに名聞若く  
佛の御きしにたが  
うらむとぞ覚ゆる  
ひたぶらのさす人  
はながしあらずほ  
し

増笑ひどりの言ひけんやうに名聞普しく  
佛の御き——にたがうらむとぞ覚ゆる  
ひたぶつめさす人になか、あらずほしき  
かたもありなむ

くはかたもありさうあまうれたるむこそあら  
まほしかづけれ ものうらまいたる聞きにく  
からずきよありてこそば多からぬこそあかす  
向かはまほしけれめでたしと見る人の心若り  
せらるる本性見えむこそ口惜しかづけれ

しなかつたもこそ生れつきたらめ心はなまか  
賢きよりか——こそにも穢せばうつらせむ  
かたも心せらるる人もまなかりぬれば品  
くだりかほしくせげなる人に立ち交りて  
かけづけあせむこそ奔意なきわざなれ

ありたきこそはま——文の道作文和歌  
策弦の道またあしに公予の方人の鏡ならむ  
こそいふかづべけれ手なごつたなからず走り  
まき、聲をかりて狗子なりつたあしうするもの  
から下戸ならぬこそあはしけれ

